

令和5年度第5回旭川市市民参加推進会議会議録

日 時 令和5年12月26日(火) 午後6時30分から午後7時50分まで

場 所 旭川市総合庁舎7階 大会議室B

出席者 委員11人

安住委員, 伊藤委員, 川瀬委員, 小松委員, 白川部委員, 田古嶋委員, 谷委員,
中込委員, 羽藤委員, 宮田委員, 宮崎委員(50音順)

事務局4人

片岡部長, 松山課長, 青木主査, 麻生

傍聴者 1人

資 料

- ・資料15 課題解決検討シート(発表まとめ)
 - ・資料16 意見書(案)
 - ・資料17 第11期旭川市市民参加推進会議の進め方(予定)
-

I 開会

委員11名が出席し, 市民参加推進条例第19条第2項に基づき, 本会が成立したことを報告。

II 議事

会 長: 本日の会議は最終回で, 意見書の内容が中心になる。初めに「第10期意見書について」, 事務局から説明をお願いします。

事務局: 資料15, 16について, 説明。

会 長: 第10期意見書について, 意見を伺う。

委 員: 3ページの1(2)通算在任の緩和について, 現行の6年間でも長く感じるが, それを12年に延長するのは長すぎるのではないかと感じる。

事務局: 委員の任期は, 1期2年が基本である。通算在任期間の延長により, 12年間委員就任を強制するものではなく, 12年まで再任を可能とするものである。女性委員の担い手が少ない中, 女性比率を上げるためには, ここまで踏み込まなければ進まない。

委 員: 他の自治体でも, 委員の通算在任は6年と決まっているのか。

事務局: 通算在任期間は, 自治体ごとに異なる。通算在任期間の上限の延長は, 第2次あさひかわ男女共同参画基本計画で目標年度を令和12年度と設定しているため, その期間までの時限措置と考えている。

委 員: 6年間委員を務め, 更に, 委員を務めたいと思う方もいるしれない。6年間委員を務め, 更に, 2年間務めることはできるのか。

事務局：できる。

委員：本会議は年5回開催するが、別機関の会議開催は年3回が多い。仮に最長で12年委員を務めても、負担感は少ないと納得した。

委員：委員が1期ごとに入れ替わるので、女性委員が12年間務めたとしても、会議は硬直化しないと思う。

会長：最長で12年。後継者がいる場合は、その時点で交代することが前提。

委員：意見書を読んだ方に誤解を与えないように1期2年で、通算12年まで就任できるという表現にした方が良い。

事務局：表現を改める。

委員：5ページの2(1)bの文章で、「可能な限り日中に会議を開催すべき。」の対象とする機関は、子育て世帯が参加する機関を指しているのか。

事務局：すべての機関を対象としている。

委員：子育て世帯は日中に開催する会議の方が都合は良いが、仕事をしている人は、日中の参加が難しい。会議の開催時間は、それぞれの機関が参加しやすい時間を調整すれば良い。

事務局：多数の委員が都合のつく時間に開催することが前提。その上で、調整が効く場合は、可能な限り日中に開催できないかという趣旨。

会長：内容を検討する。

委員：1(5)に関して、女性が会議に参加する意義を事務局職員が理解することが重要。そうでなければ、女性登用は進まないし、女性が会議に参加することそのもののメリットを理解できない。

委員：2(1)アについて、会議の場で意見することに自信がない方がいるため、グループワークにより発言の機会を作ることで、参加のしやすさにつながる。私自身、本会議のグループワークでそう感じた。

委員：2(1)で、グループワークやカジュアルな服装でのお茶会形式の開催可否は、附属機関の所掌事項によって異なると思う。具体的にこれを取り入れている機関はあるのか。

事務局：ない。

委員：会議の雰囲気は良くなると思う。一方で、報酬もらい、会議に出席してるため、それが良いものなのかと感じる。

会長：飲食が目的ではなく、一体感を持ち、コミュニケーションが深まる効果は期待できる。次期本会議で、試験的に取り入れ、効果を検証することも面白い。

委員：所掌事項によって、委員が意見しやすい会議と、性質上そうではない会議があるが、委員の視点に立つと、自らの意見が取り入れられることは嬉しいと感じる。

会長：意見の出しやすさが本会議の特徴であるが、半面、委員から意見が出されないと審議が進ま

ない。今年は新たな試みを取り入れ、委員に多くの意見を出していただいたことで、具体的な提言ができるまで到達したという成果を感じる。

委員：会議の雰囲気は大切。個人の意見が脱線しても、様々な経験を持つ他の委員の別視点からの建設的な意見によって、軌道修正してもらえる。

委員：附属機関の会議に今期はじめて参加したが、1年目は結構緊張した。2年目は他の委員と顔見知りになり、グループワークをすることで気軽に発言しやすくなった。

委員：本会議のような発言しやすい会議は他にない。

委員：2ページ「女性委員の割合を36%に設定」とあるが、本来男女比は半々であるべきなのでこういう目標を設定すること自体が女性を低く見ている印象を受ける。

事務局：第1次あさひかわ男女共同参画基本計画では、女性委員の割合50%を目標としていたが、計画と実態との乖離が大きかった経過を踏まえ、計画の見直し時に、着実に前進させるため、女性割合を1年で1%上げる目標を定めた。

委員：そうした経過を知らないで意見書を読む方がいるので、説明を入れるべき。

会長：内容を検討する。

委員：5ページの2行目「男性のみの会議の」、 「会議を」だと思う。

事務局：修正する。

委員：意見書全体の印象として、子育て世帯に特化し過ぎている。女性委員の割合を引き上げるため、子育て世帯をターゲットとしたい気持ちは理解できるが、果たしてそれが正しいのかと思う。意見書の「可能な限り日中に会議を開催すべき」という部分について、日中に働く男女の参加を排除するように受け取られかねない。

会長：ライフスタイルが異なる方々が時間合わせることは大変なこと。事務局と協議し、表現を改める。

委員：1(5)、女性登用の意義について、自分は今期の審議に参加したので、その背景を理解できたが、そうではない人には通知のみでは伝わりにくいので、資料で補足した方が良い。

会長：いただいた意見を踏まえ、意見書を事務局と調整する。最終案を各委員に確認してもらった上で確定したいと思うがよろしいか。

委員一同：<了承>

会長：「第11期の取組について」事務局から説明をお願いします。

事務局：資料17を説明。

会長：意見や質問を伺う。

委員：最下段、2年目の第10回と標記しているが、第5回ではないか。

事務局：第5回が正しい。訂正する。

委員：次期1年目の議題で、女性登用を審議しなくて良いのか。

事務局：今回の意見書を基に令和6年度に取組を進めるため、効果の検証を含めて2年目に女性登用を審議する。

委員：今年の審議で託児スペースを設けるなどの意見が出たが、本会議で試験的に導入するなどの取組は考えているのか。

事務局：今回の意見書を踏まえ、これから具体的な取組を検討する。

委員：本会議の今年の進め方に好印象を感じる。だからこそ、この会議から試験的に導入してみるなど、もう一步踏み込んで欲しい。

会長：男性のみの会議、女性のみの会議などは本会議で試験的に取り入れられるかもしれない。

事務局：グループワークの班分けで、男性のみの班、女性のみの班、男女比率半々の班にするなどであれば取り組みやすい。

会長：第11期では是非試験的に取り入れてほしい。

会長：第11期の進め方について、原案どおりでよろしいか。

委員一同：<了承>

会長：本日の議事が全て終了した。最後に、各委員から感想を伺う。

委員：今期の会議は、1年目は職員会館で開催されたが、2年目は新庁舎で開催でき、それ自体がなかなか得られない経験。審議では、それぞれの委員の意気込みが伝わり、自らも審議の力になりたいという思いで会議に参加した。

委員：第8期も本会議に参加していたが、委員構成が大きく変わり、女性が増え、年齢層も若返り、非常に活発な会議になったという印象を受けた。こうした会議ができれば、旭川の将来も安心できると思う。

委員：会議の開催回数も多く、回を重ねるごとにステップを踏んでいる会議だと感じた。公募委員の立場で参加したが、発言の大切さを認識でき、議題も前向きな内容で建設的な審議ができた。

委員：本会議に6年間参加した。当初は退屈に感じたが、今期はグループワークが取り入れられ、会議の参加が楽しく、また、会議の運営手法の違いによる変化を感じとれた。会長の議事進行や事務局の雰囲気づくりも良かったと思う。すべての附属機関の会議が、こうした雰囲気になれば良いと思う。

委員：他の附属機関の会議に参加しているが、そこは仰々しい雰囲気。本会議は、疎外感なく自由に発言でき、委員構成も多様で、それ自体に価値があると感じた。

委員：今期初めて参加した。1年目と2年目で事務局職員が大きく変わり、今年は、会議が活発になった印象を受けた。私自身が附属機関の委員として会議参加すると思ってもいなかったので、貴重な経験ができた。

委員：複数の附属機関、懇談会に参加している立場として、本会議が最も発言しやすい雰囲気だっ

た。それは、どのような発言をしても、他の委員にその発言を拾ってもらえたことで、発言することの意義を感じたためである。次期委員として後輩にもこうした経験を積んでもらえたら嬉しいし、若者視点の意見で、若者にとってもより良いまちになって欲しい。

委員：今回初めて附属機関の会議に参加した。1年目は緊張で発言しにくかったが、2年目はグループワークを通して、一体感を持って、意見をまとめていく過程を体感できた。

委員：私自身が本会議を通して知見が得られ、また、考え方も変わる経験ができ、有意義な会議であった。

委員：これまで数々の会議に参加してきたが、本会議のように多様な意見が出され、笑い合える雰囲気の良い会議はない。会長の議事進行、事務局の運営手法を参考に、私が所属する団体でもグループワークを取り入れる試みを実践した。

会長：本会議委員を3期6年務めた。各委員から今回は楽しかったと感想をもらったが、私が就任した1期目の時は、前例を踏襲した議事進行しかできず、会議に意味があるように感じなかった。それを当然のものとは思っていたが、それでも苦しかった。意見書を出しても改善されず、虚しさが積み上がっていった。それならば変えようということで、事務局と協力して大きく舵を切った結果、ここまで来ることができた。そして、ないものは作らなければならないことに気付けた。委員に協力いただき、この1年でいい形が出来上がったと実感している。そこでお願いがある。是非、他の機関の委員に就任し、機会があれば、その会議の中でグループワークを提案するなど、会議を引っ張る委員になってもらいたい。必ずしも本会議のような運営ではないかもしれないが、求められるものがあるから公募委員の制度がある。今期の経験を通して、公募委員として活躍もらいたい。

事務局：第10期市民参加推進会議は終了する。深くお礼申し上げます。本日は、以上で終了する。